

広報 やまこし

1979
1月
第127号

発行/新潟県古志郡山古志村役場 電話 (025859) 2331 ■印刷/大川印刷株式会社 ■毎月1日発行



1月6日は

消防出ぞめ式

一月六日に、村の消防団により恒例の「消防出ぞめ式」が行われます。午前九時のサイレン(半鐘)を合図に、万一の火災に備え、各分団ごとで機械器具の点検や放水訓練を実施します。

昨年、県内では多くの火災が発生し、特に火災による死亡者が増えました。しかし、幸い村内ではこの一年間、一件も火災はありませんでした。年を新たにし、さらに火災防止を心がけ、無事に一年を送りましょう。

お知らせ

奥さんの心づかいでうるおう財政

たばこは村内で買しましょう

愛煙家のみなさん、たばこは村内の小売店でお買い求めください。二十本入り一箱で、約二十五円が村の収入になります。村外に通動されている方は、職場近くのお店や自動販売機などで買い求められることが多いと思いますが、その日必要な分はわが家から持参してはいかがでしょうか。奥さん方にもご協力をお願いします。ご主人や息子さんが通動される際には、愛情のこもったお弁当にその日吸うたばこを一個添えてください。そうしますと、村内で買われるたばこはグリーンと増え、村の収入もふえます。奥さん方のこまやかな心づかりで村の財政がうるおい、そして形を変え行

政サービスとしてあなたにも還元されたい。お正月に帰省された出稼ぎのみなさんも、職場に復帰されるときは、当座のたばこは村内で買って出かけください。また、お土産や贈り物に「角突きのたばこ」もご利用ください。ちなみに、たばこの売上げと村の収入になったたばこ消費税の状況を次の表にまとめてみました。

1年間に吸ったたばこと税金

年度	たばこ売上数量 (20本1箱に換算)	前年 比	成人男子 1人当り	村の収入になった たばこ消費税	前年 比	成人男子 1人当り
48	343,975箱	99%	242箱	5,237千円	102%	3,680円
49	364,925	106	258	5,721	109	4,052
50	355,957	98	258	5,717	100	4,143
51	348,205	98	252	5,892	103	4,266
52	404,647	116	295	9,816	167	7,165
53 (見込)	372,425	92	277	9,162	93	6,822

「出稼ぎ先訪問バス」発車

申込みは
1月31日まで



今回で六年目を迎える「出稼ぎ先訪問バス」は、「雪の故郷」と「出稼ぎ先」とを結ぶ定期便として、これまで多くの方に利用されてき

ました。今年も上・中・下越地区から一台ずつ運行されますので、希望する方は多数ご利用ください。○発車日時 三月二日午後八時 長岡発車 小千谷、小出からも乗車でき

- 到着日時 三月三日午前八時ごろ サンプラザ(東京都中野区) 三月三日午後一時ごろ 神奈川県政総合センター(横浜駅西口)
- 帰りの日時 三月四日、午後九時三十分上野駅集合、十時三十分出発。三月五日朝に到着
- バス料金 長岡から東京往復六〇〇〇円(乗車場所により決定)
- 宿泊 ます。

- 日時 一月二十八日(日) 午前九時~午後四時
- 場所 東京流通センター 太田区平和島六-1-1
- 希望者は十日までに産業課へ

出稼ぎ集会開催

十九日夜、まわりの山は白く、星空。道は凍りつきチカチカ光る。吐く息も白く、やっぱり冬なんだなあと感じる。池谷でダンスの練習をやっているというので行ってみた。男七人、女九人。何と女の子のほうが多い。「それでもまだ来てない女の子がいる」とは…。 それにしても、みんなサマになっている。自分もやろうかな、でも苦手だし、はずかしいかな。なんて考えていたら、急にハナミズが出てきたので威勢よく退散。

年頭にあたって



山古志村長 佐藤 久

あけましておめでとうござります

不況続きで明けた昨年は、暗雲低迷のまま終りました。春の雪害次いで六・二六梅雨前線豪雨は四五〇ミリに達し、当村にかつてない被害を与えました。大切な田、畑、池が崩れ、先輩と共にみんなで造った道路がずたずたになって一時は村内の通行さえ困難し、国の激甚法の指定を受けるに至りました。さらにその後、早天で飲料水のなくなった家が多く、秋の池上げが出来ないところも出ました。

その中で、村民の強い意志と努力で災害復旧がすすめられてきていることは、頼もしいことでもあります。また、五月一日から種々原と梶金にバスが入ったこと、米が豊作で錦鯉も量が減ったとはいえず値段が尻上りになったことは喜ばしいことでもあります。不況は世界的で、国内の失業者は百二十万人と称され、企業の倒産も止まず、大企業まで事業の縮小と人員整理を行い始めました。今は自国だけではどうにもならずイランの動乱がすぐ原油の値上りを起こすような現況であります。また、わが国のドル減らしで、米、欧州から農産物の自由化を強要され、一方、柑橘、畜産業界などの圧迫で大変苦しい状態にあります。人の外にあまり資源をもたない国だから困ります。

さて、五十四年はどうでしょう。国はこんど、第三次全国総合計画を立て、地方定住構想を打ち出しています。これを受けて農林水産省は、農山村定住促進事業を計画しました。つまり国は、農山村の見直しを始めたのです。

そこで我々は、これを受入れるため、国県の施策に本腰で取り組むべく、理解と創意工夫をこらす決意と努力が必要で、村は国県の方針を受け、村民各位のご協力を得、鋭意、道路網の整備、農林水産の振興、教育施設の充実、観光事業などの振興計画を樹立中であり、その成否は、かかって村民みなさんのお力に頼るばかりありません。どうぞ一層のご協力をお願いいたします。



「初雪の頃」

版画 山古志中学校教諭 石田 朝美



12月定例村議会

昭和五十二年第四回定例村議会は、去る十二月十二日に招集され、昭和五十二年度決算など二十三件の議案について審議され、それぞれ原案どおり可決・承認されました。主な概要は次のとおり。

五十二年度決算
一般会計、特別会計についてそれぞれ決算認定されました。概算は八月号でお知らせしたとおり。

補正予算
一般会計について、積立金の追加、災害復旧費の減などで、歳入歳出それぞれ六千万円追加、総額は十一億三千八百八十八万円になりました。特別会計も、診療所の医業費など、あわせて六百八十九万円が追加されました。

人事関係
任期満了に伴い、教育委員会委員に、長島源佐さん(虫亀)の再任が同意されました。

条例関係
人事院勧告に基づき、一般職の給与が三・四五%引上げられました。これに伴い、期末手当が〇・一か月分減じられました。

この外、高齢者等肉用牛飼育事業基金の設置条例などが、可決・承認されました。

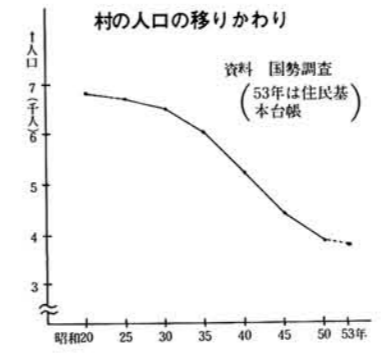


おり、九十分の録音テープにして十五本余りになりました。これを文字に起こすと部厚い単行本が一冊できるといふ、大変な量です。多くの事例によつたお話しは、活気ある村を作るための大きな手がかりになるものでしたが、六月の水害の後始末が重なったためか、出席者が非常に少なかったのは本当に残念でした。このたび講演の際同行された、研究所の須藤藤、和田典久、青柳正一の三氏から先生の講演の主要部分をまとめたいただきましたので来月号から掲載する予定です。ぜひ眼を通していただき、お互いが自分のこととしてじっくり考えていただきたいと思ひます。



活気ある村をつくる

村では数年前から、山古志村の地域再開発について日本観光文化研究所に調査を依頼してきましたが、この結果は、すでにみなさんに配布した「活気ある村をつくる」と題した冊子にまとめられてあります。この中では、山古志村の人口が十年後、さらに二十年後どのような変化をしていくだろうか、について報告があります。過去から現在まで、人口に関する多くのデータを集め将来の予測をした



定な人口構造が示されています。山古志村の人口は昭和三十八年以降、激減しています。今後は今までのような極端な減り方はないでしょうが、早い機会に若者が村に残り、収入が得られるような対策を講じないと、とりかえしのつかないことになりかねません。

しかし、「村内の産業を盛んにし、雇用の機会を増やす努力をすれば、村の人口も安定を取りもどせる」という明るい見とおしも報告されています。それにはまず目的を持った人々が集まり、仲間づくりをし、村の産業を盛り上げていくことができるかを研究し、実践していくことが大切になります。

「活気ある村をつくる」という冊子には、山古志村にはまだまだ産業を盛んにしていく要素がたくさんあること、豊かな村をつくる可納性が充分にあることなど、活気ある村づくりをするための基本的な考え方が示されています。

ぜひ熟読していただき、実践に役立て、いただきたいものです。

また昨年八月二十八日から三十一日までの四日間、日本観光文化研究所所長、宮本常一先生がおいでになり、村の再開発に関する講演とみなさんと話し合いの場をもつていただきました。

(宮本先生は明治四十年生れ、文学博士、元武蔵野美術大学教授。山古志村のような恵まれない地域に常に暖かい眼をむけてこられた方で、全国の離島、過疎地域の振興に大きく貢献されています。)

宮本先生は四日間に、各種団体役員、青年グループ、婦人グループ、種芋原、虫亀、竹沢、東竹沢、三が地区と合計八会場を精力的に回って下さいました。話の内容も山古志村の産業振興、人口問題、工業導入の問題、土地利用、農業問題、文化活動、各団体の活動、雪の利用など非常に多岐にわたって

農業共済

昭和五十二年支払共済金 水稻二百五十二万四千円

昭和五十二年度の水稻の支払共済金がまとまりましたのでお知らせします。

昨年の作柄は、病害虫による被害こそ少なかったものの、六・二六梅雨前線豪雨災害により各地区とも大きな被害をうけました。そのため、支払共済金は、昭和五十二年度の約一倍にも達しました。概要は表のとおりです。

地区名	被害戸数	筆数	被害面積(a)	減収量(kg)	支払共済金(千円)
種芋原	36	62	282	4,996	1,404
虫亀、南平	11	27	103	1,833	515
竹沢	3	6	22	248	70
東竹沢	23	32	134	1,905	535
合計	73	127	541	8,982	2,524

建物共済の加入実績

農業共済の建物共済の昭和五十二年十一月三十一日現在の加入実績がまとまりましたのでお知らせします。

加入総件数 七二一件
総共済金額 一九億一、七五〇万円
一件あたり平均共済金額 二六七万円
掛金総額 二四、二万円
(前年に比べ二八%増)

火の元はだじょうぶですか。電気、ガス等、目に見えない危険もいっぱいあります。万一のための用心も必要です。

農業共済の建物共済は、少ない掛金で大きな補償。しかもその年ごとの契約でインフレにも強い。

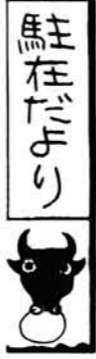
掛金表

共済金額	掛金		
	一般住宅等 一筆	店宿 民	舗等 宿
万円 300	円 3,600	円 5,700	円 5,700
500	6,000	9,500	9,500
1,000	12,000	19,000	19,000

備えあればうれいなしわが家の時価額いっぱい加入しましょう。



建物共済は農家を守るガリバー



駐在所
長岡警察署
竹沢・種芋原・蓬平駐在所
あけておめでとうございます。

- 昭和五十四年度重点目標
県民の期待と信頼にこたえる警察活動の推進
- (1)暴力犯罪の徹底検挙
- (2)交通死亡事故の抑止
- (3)少年非行の防止
- 雪による災害事故の防止
- 足もとをたしかめておろそう
- 屋根の雪
- 標識を立てて知らそう
- 危険箇所
- なだれに注意しましょう
- 飲酒運転の追放
- 飲酒運転 雪の道

災害査定状況

12月現在
四億四千万円

六・二六梅雨前線豪雨災害による被害の査定状況をお知らせします。十一月現在で、表のとおり件数三二八件、金額四億四千余万円

要するものから行い、すでに工事が進んでいます。円になっています。今年度発注は、県道、村道など緊急を要するものになっては二箇年で工事をすることになり、今年度やれなかった工事は五十四年度～五十五年度

6・26梅雨前線豪雨被害状況 (査定済分) 53.12.

工種	件数	金額(万円)	備考
国道	27	7,594	発注済11件
村道	53	17,971	8件
河川	11	2,871	1件
治山	13	5,782	10件
林道	4	331	
田	22	1,676	
農道、ため池等	24	4,065	
養鯉池	74	3,873	
計	228	44,163	発注済30件



佐藤三郎さん(下村)



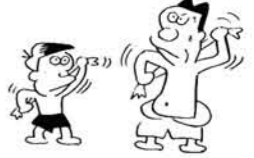
那須五葉松
樹令約八十年



今年も インフルエンザ

予防と がかかったときの注意

ふだんから体に抵抗力を
インフルエンザの流行期には、
空気中に病原体のウイルスがう
よよとして、だれもが感染の「危機」
にさらされています。しかし、大
切なことは、感染
しても発病しない
ように、ふだんか
ら体の抵抗力を養
っておくことです。
そのためにはど



睡眠不足に注意する。
◎ 汗をかいたら、こまめに下着
をとりかえ、また、湯ぎめやう
たた寝など、ちよつとした「油
断」に注意する。
外出にはマスクを
帰ったらうがい
インフルエンザが流行している
時には、不必要な外出はなるべく
控えた方がよいでしょう。
また、外出するとき
は、マスクをし、帰っ
たらすぐうがいをす
よう心がけてください。
簡単なようなこと
が、これがインフルエンザの予防
には、実に効果的なのです。
マスクをすると、病原菌がある
程度防ぎだけでなく、冷たい外気
やほりからのどを守ります。
うがいは、のどについていたウイル
スや細菌を殺す力こそありません



たかが風邪ぐらいいとあなどれませ
ん。これが大流行すると平均寿命
が下がるといわれるほどで、特に
大正七年では全国で、二千四百万
人が発病、死亡者はなんと四十万
人にもノマ、五十二年は約二十
万人が感染し、六百八十人の人が
亡くなっています。
この冬も「ソ連かぜ」を中心に
大流行の兆しをみせています。予
防と感染時の治療には十分な配慮
をしてください。

うしたらよいかというと、
◎ 運動などで体をきたえる。
◎ 乾布まさつや薄着の習慣をつ
けて皮膚を鍛錬する。
◎ 栄養バランスのよい食事をし
て体力をつける。
◎ 規則正しい生活をし、過労や
インフルエンザにかかったら—外出を避け安全に
インフルエンザにかかったら、
インフルエンザにかかってしま
つたら、何はともあれ、安静に休
むことが先決です。熱が出たりし
た場合はすぐ医者へ。
要は「短期決戦」に徹し、だら
だらとさせないことです。
また、軽いからといっても、外
出は避けましょう。体力を消耗し



国民年金

忘れると大変です

年金の現況届はお早めに

国民年金の老齢年金
(通算老齢年金を含む)
の事務は、東京の社会保険庁で行
われています。
年金は、みなさんが裁定請求の
際に希望した金融機関を通して、
年に四回(通算老齢年金は年に二
回)支払われます。
この年金の支払いは、社会保
険庁が毎年みなさんの生存などを確
認したうえで行われています。
みなさんが、年金を引き続いて
受けるためには、年一回、社会保
険庁に生存していることの証明を
提出しなければなりません。

国民年金の老齢年金
受給権者現況届 といっています。
現況届は、昭和五十二年一月十
五日以前から年金を受けている人
は必ず提出する必要があります。
現況届の用紙(ハガキ)は一月
十五日ごろまでに、社会保険庁か
ら受給権者あてに直接郵送されま
す。
受給者のみなさんは、その用紙
に住所、氏名を記入のうえ(押印
を忘れずに)、市町村長の証明を
うけて二月十五日までに必ず社会
保険庁に提出してください。
なお、現況届が期限までに提出
されないと、引き続いて年金を支
払ってよいかどうかの
判断がつかせないので、

現況届を忘れると
年金はストップされます



電話線にご注意を

雪おろしのシーズンです。建物
に引込んである電話線を切らない
ようご注意ください。
特に冬は、修理に時間がかかり
ます。
(長岡電報電話局)



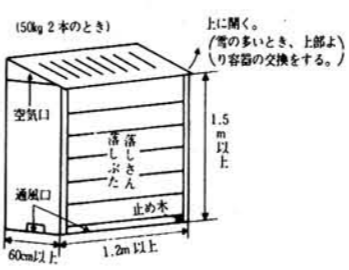
スノーダンプで雪おろしの
ときは特に転落にご注意を

冬のガス事故防止

LPガス(プロパン)を安全に使おう

最近、LPガスの事故が多く発
生しています。これから本格的な
冬を迎え、雪の重みや屋根からの
落雪などでゴムホースが外れたり
して起きるガス事故が心配されま
す。こうした事故をなくするため、
次のことに特にご注意ください。
▼ガス容器は収納庫に
調整器やホースの損傷を防ぐ
ため、容器は必ず収納庫(囲い)
に入れましょう。
雪おろしのときは収納庫を破
損しないように。また、収納庫の
周りには、点検や万一の時の処理
のため除雪に努めてください。
▼調整器の凍結を防ぐ
調整器をポリ袋などで覆い、
水が入らないように。また金属
の配管などはテープをまき保温
しましょう。また調整器を収納
庫に入れるのも効果的です。
人が圧倒的に多い——インフル
エンザで命を落とすことは少ない
ものの、肺炎や心臓病、ジン炎な
どを起こすことがあります。実は
この余病の誘発がこわいのです。
風邪ぐらい、といわず十分ご注
意を。

収納庫の一例



おもしろい村

二十村地名 起源考 修 野 軍 氏

前項の続

星野亀吉先生が、二十村の沿
草の末尾に記された石津村とは
領地交換以後からのことだった
し、共に長岡領をはなれて公儀
の土地となったわけである。こ
れを天領と公称していた。
しかし、月日がたつにつれて
も二十村の俗称は消えず、その
ころから山入りのおまけまでつ
いて、山入り二十村と山間群地
の農村の印象を与えながら今日
まで長い歴史を綴ってきたもの
である。その天領の歴史をひろ
うて見ると、宝永三年1706には石
津代官所(現西蒲原郡岩室村石
津)、正徳元年1711には出雲崎代
官所、宝暦十年1760には高田藩に
同じく宝暦十三年1763には再び出
雲崎代官所に、天明四年1784には
また石津代官所に、寛政四年1794
にはあらたに脇野町代官所(現
三島郡三島町)になり、更に文
化十二年1815になって白河(現福
島県)の松平藩の預り領となつ
たが、松平藩が伊勢国(現三重
県)の桑名に移封されたが、そ
のまま桑名藩の預り領となつて
明治維新まで続いて来たもので
ある。その当時の代官所は柏崎
にあった。